

令和6年度 第21回

「家族のきずな」

エッセイ集



公益財団法人

モロロジー道徳教育財団

共 催：麗澤大学／麗澤中学・高等学校

後 援：千葉県／千葉県教育委員会／柏市／柏市教育委員会／我孫子市教育委員会／鎌ヶ谷市教育委員会／流山市教育委員会
野田市教育委員会／松戸市教育委員会／柏市PTA連絡協議会／株式会社ジェイコム千葉 東関東局

「人づくり」による「国づくり」を モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

モラロジーとは

モラロジー (moralogy) は、「道徳」を表すモラル (moral) と「学」を表すロジー (logy) からなる学術名で、「道徳科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした科学「総合人間学」です。

公益財団法人モラロジー道徳教育財団

モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正 15 (1926) 年の創立以来、「道徳で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道徳的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じて SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて取り組んでいます。

令和6年度 第21回 「家族のきずな」エッセイ集



目 次



ごあいさつ

公益財団法人

モラロジー道德教育財団

理事長 廣池 幹堂



講 評

選考委員長

柏市小中学校校長会 会 長 伊藤 嘉章



入賞・入選作品一覧



ご応募いただいた小学校



入賞作品



入選作品



ごあいさつ

公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 理事長

ひろいけ 廣池 幹堂

モラロジー道徳教育財団では、子供たちが家族の大切さに気付き、豊かな心を育むことを目的として、毎年「家族のきずな」をテーマとしたエッセイ募集事業を実施しております。今年度も千葉県、千葉県教育委員会、柏市、東葛六市（柏、我孫子、鎌ヶ谷、流山、野田、松戸）の各教育委員会、ならびに柏市PTA連絡協議会、ジェイコム千葉東関東局よりご後援をいただき、二十一回目を迎えることができました。

本年も小学五年生を対象として、東葛六市の教育委員会によるご協力のもと、各小学校に募集を呼びかけましたところ、千四百六十六編のエッセイが寄せられました。本冊子には、その中から厳正なる審査によって選ばれた入賞八編と入選四十二編を掲載しております。

多くの児童から寄せられたエッセイは、家族との心の交流や感謝の心、祖先を思う心、いのちのつな

がりの大切さなどが素直に表現されていて、どの作品も感動的なものばかりです。ご応募いただいた児童の皆様、ご指導や募集にご協力をいただいた各学校の先生方、ならびに原稿の審査にご尽力を賜りました選考委員の皆様、各団体、協賛企業をはじめとする関係各位に改めて感謝を申し上げます。

個人の多様性が重視され、人と社会との繋がりが薄れているのではないかと思う報道を目にすることもありますが、いかなる時代におきましても教育の原点は家庭です。家族・親・祖先とのつながりを感じるとき、子供たちは喜びと生きる力を得ることができます。このエッセイ募集事業と本冊子に掲載された心温まる作品が、少しでも「家族のきずな」を強め、家庭・学校・地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育む機会の一助となりましたら、誠に幸いに存じます。

講 評

選考委員長

柏市小中学校校長会 会長

伊藤嘉章

今年度も『家族のきずなエッセイ』にたくさんの方の御応募をいただき誠にありがとうございました。それぞれの作品は家族を大切にし、物事を前向きに捉え、何事にもチャレンジしていこうとする気持ちが自分の言葉で表現されていました。子供たちは日常生活の中で家族からたくさん愛情を注がれて育ってきたのだと、とても温かい気持ちになりました。

今、人工知能（AI）の飛躍的な進化や少子高齢化、グローバル化の進展等により、社会構造は加速度を増して大きく変化し、より複雑で予測困難な時代となっています。このような時代にあっても不易なものは家族とのつながりや絆、言葉で伝えることの大切さであると思います。

今回の作品からも家族から励まされたり、支えられたり、愛されたりする中で困難を乗り越え、今度は私が家族を支えたい、一番の味方になりたい、いつか感謝の言葉を伝えたいと感じたことを自分の言葉で表現した作品が多く見られました。

選考委員一同、いずれも甲乙つけがたい作品に囲まれ、選考は難航しましたが、それ以上に私たち選考委員が子供たちから温かな心や人を思いやる心、命の繋がり大切さに接することができ、幸せな時間を過ごすことができました。

応募してくださった皆さん、ありがとうございました。そして、入賞・入選された皆さんおめでとうございます。

最終選考委員

選考委員長	伊藤 嘉章	柏市小中学校校長会 会長
副選考委員長	川原 容一	公益財団法人モロロジー・道徳教育財団 学校教育センター センター長
選考委員	遠藤 須美子	柏市教育委員会 学校教育部指導課 副参事
	羽山 英男	柏市教育委員会 学校教育部指導課 指導主事
	酒井 学	(株)ジェイコム千葉 東関東局 局長
	橋本 富太郎	麗澤大学 外国語学部 教授
	川部 翔	麗澤中学高等学校 教諭
	富田 裕之	公益財団法人モロロジー・道徳教育財団 コンテンツ開発局 局長
	中澤 史隆	公益財団法人モロロジー・道徳教育財団 広報部 部長

令和6年度 第21回「家族のきずな」エッセイ 入賞・入選作品一覧



千葉県知事賞

家族は助け合って生きている

松戸市立河原塚小学校 5年

矢 口 冬 馬
や ぐち とう ま



柏市長賞

祖父の野菜

柏市立柏第七小学校 5年

小 嶋 乃 叶
こ じま の かの



柏市教育長賞

ぼくのお母さん

柏市立田中小学校 5年

中 村 悠 人
なか むら ゆう と



柏市小中学校校長会会長賞

いないけれど

流山市立西深井小学校 5年

田 村 美 結
た むら み ゆ



柏市PTA連絡協議会賞

おはようじいじ

流山市立東深井小学校 5年

菊 池 夏 緑
きく ち なつ り



ジェイコム賞

家族がふえたよろこび。

流山市立長崎小学校 5年

今 津 みゆう
いま づ



麗澤大学賞

がんばっている母

松戸市立河原塚小学校 5年

畠 山 馨
はたけ やま かおる



モラロジー道德教育財団賞

最後のお別れ

柏市立柏第七小学校 5年

菅 朱 莉
すが あか り

入 選

★掲載順=氏名50音順

私の自まんの家族	松戸市立小金小学校	5年	有 澤 帆 夏
キャンプ	松戸市立小金小学校	5年	磯 谷 凧 紗
家族といっしょに。	柏市立柏第三小学校	5年	植 田 彩 加
家族の大切さ	流山市立長崎小学校	5年	牛 奥 結 香

水泳と家族	流山市立西深井小学校	5年	柏 木 柚 香
ぼくは愛されている	松戸市立小金小学校	5年	加田木 晃 幹
弟が生まれたから変わったこと	松戸市立小金小学校	5年	栗 原 心 音
運動会	柏市立柏第三小学校	5年	黒 竹 信 貴
大好きな家族とのきすな	柏市立柏第五小学校	5年	斎 藤 愛
ぼくのお兄ちゃん	松戸市立河原塚小学校	5年	齋 藤 輝 太
生きててくれてありがとう	松戸市立南部小学校	5年	碓 菜 琴
私のヒーロー	流山市立長崎小学校	5年	佐 藤 愛 有
弟からの四文字	松戸市立小金小学校	5年	佐 藤 悠 季
家族という毎日	柏市立柏第七小学校	5年	佐 藤 莉 子
我家に双子ちゃんがやってきた！	柏市立柏第三小学校	5年	澤 畑 七菜子
感動と勇氣	鎌ヶ谷市立五本松小学校	5年	澁 谷 星 空
ちらしずし	柏市立柏第七小学校	5年	下 瀬 晴 琉
家族とのきすな	柏市立柏第七小学校	5年	杉 岡 愛
家族からの忘れられない言葉	柏市立柏第三小学校	5年	杉 田 とこわ
かけがえのない大切なそんざい	柏市立柏第三小学校	5年	杉 山 侑 里
家族のはげまし、感謝。	柏市立柏第三小学校	5年	鈴 木 禮 大
家族のやさしさ	柏市立田中北小学校	5年	砂 川 桜太郎
家族のきすな	柏市立田中北小学校	5年	砂 川 拓 斗
母の笑顔	鎌ヶ谷市立五本松小学校	5年	瀬 戸 乃々佳
また会えるといいな	鎌ヶ谷市立五本松小学校	5年	竹 口 由 布
忘れられない家族の一言	柏市立柏第三小学校	5年	竹 田 梨 玖
黒焦げのたまごやき	柏市立土小学校	5年	田 中 ひかり
私の大切なお母さん	柏市立田中小学校	5年	都 留 柑 菜
お母さんが教えてくれた「ありがとう」の意味	柏市立田中北小学校	5年	T Y
家族が教えてくれたこと	柏市立柏第三小学校	5年	中 野 瑞 希
ぼくの思う大切な家族	柏市立柏第五小学校	5年	野 本 侑 生
なぜ感謝を伝えなければいけないのか	鎌ヶ谷市立五本松小学校	5年	秦 野 奈 緒
「ありがとう」の気持ち	柏市立田中小学校	5年	平 野 葵
いつもよりそってくれた家族	松戸市立柿ノ木台小学校	5年	福 尾 彩 友
はげましの言葉	柏市立柏第七小学校	5年	本 田 梓
笑顔のご飯	柏市立田中北小学校	5年	前 田 結 希
家族の大切さ	柏市立柏第三小学校	5年	増 谷 優 希
お母さんからの思い	鎌ヶ谷市立北部小学校	5年	溝 田 ゆ き
お母さんへの日頃の感謝	柏市立田中小学校	5年	宮 下 菜 月
私にとっての安全地帯	松戸市立小金小学校	5年	山 田 愛 里
家族のきすな	柏市立田中北小学校	5年	吉 岡 煌 人
家族との母子手帳	柏市立柏第五小学校	5年	吉 野 真 央

ご応募いただいた小学校

柏市 (13校)

柏市立 柏第一小学校
柏第三小学校
柏第五小学校
柏第七小学校
光ヶ丘小学校
田中小学校
田中北小学校
酒井根西小学校
土小学校
土南部小学校
逆井小学校
十余二小学校
手賀東小学校

我孫子市 (3校)

我孫子市立 我孫子第一小学校
我孫子第三小学校
布佐南小学校

鎌ヶ谷市 (4校)

鎌ヶ谷市立 南部小学校
北部小学校
初富小学校
五本松小学校

野田市 (2校)

野田市立 関宿中央小学校
木間ヶ瀬小学校

流山市 (5校)

流山市立 長崎小学校
東深井小学校
西深井小学校
流山小学校
西初石小学校

松戸市 (11校)

松戸市立 東部小学校
南部小学校
小金小学校
常盤平第三小学校
上本郷小学校
栗ヶ沢小学校
松ヶ丘小学校
柿ノ木台小学校
梨香台小学校
河原塚小学校
上本郷第二小学校

エッセイ応募総数 1,466編

応募小学校総数 38校

最優秀賞作品

千葉県知事賞

家族は助け合って生きている

松戸市立河原塚小学校

五年

矢口 やぐち

冬馬 とうま

「夜ご飯、何が食べたい？」お父さんがぼくに聞いた。お父さんが作ってくれるそうだ。

一年半前、いつもおいしい料理を作ってくれていたお母さんが、体調を崩してしまった。仕事もやめてしまい、家事もできなくなった。すると、お父さんが料理をしてくれるようになった。それまで台所に立ったことなんてなかったのに。「お父さん、出来るの？」ぼくは聞いた。お父さんは、「家族は助け合って生きていくんだ。もし病気になったのがお父さんだったとしたら、お母さんが助けてくれていただろ？」ぼくは思った。ぼくもできることをしよう。今まで当たり前のことだと思っていたけど、ぼくも家族に助けってもらっている。洗濯物をたたんだり、まだ小さい弟の着替えを手伝ったりした。少しずつお母さんに笑顔が戻っていく気がした。

今度、お父さんに「何が食べたい？」と聞かれたら、「ぼくも手伝うよ！」と答えようと思う。

優 秀 賞 作 品

柏 市 長 賞

祖父の野菜

柏市立柏第七小学校

五年

小嶋 こじま

乃叶 のかの

私の家には、一カ月に一回ダンボールにぎつしりと野菜がとどきます。その野菜は無農薬で、甘くてつやつやしています。

夏休みに、私は祖父と畑に行きました。畑には色々な野菜がすくすくと育っていました。祖父は、割りばしを手にして、キャベツについた青虫を一匹一匹とっていました。私はそれを見て、「気持ち悪いな。」と思っていましたが祖父は無農薬にこだわっています。私は、「祖父は本当に野菜作りが好きなんだな。」と思いました。しゅうかくした野菜をお昼に祖母がならべてくれました。しかし、祖母は少ししか食べませんでした。

夏休みが終わるころ、私が世話した野菜がたくさんとどきました。私は、箱から野菜を出しながら、なみだが出そうになりました。祖父が無農薬にこだわっていたのも、あんなにたくさん作っていたのも全て私たちのためだったのです。私は来年、祖父よりたくさん青虫をとります。

優 秀 賞 作 品

柏 市 教 育 長 賞

ぼくのお母さん

柏市立田中小学校

五年

なかむら
中村 悠人
ゆうと

ぼくのお母さんは去年、乳がんと診断された。夏の日だった。がん検診で引っかかり、泣きながらぼくに伝えてくれた。まだ初期だったため、命に別状はないようだ。そして、お母さんは手術のため十二月のあたまで入院することになった。

手術日前日、準備を終えて玄関から出て行くお母さんの背中をぼーっと見つめていた。本当に無事に帰ってこられるのか、心配していた。授業も、冷や汗を出して。

退院日、玄関のドアから入ってくるお母さんを、ぎゅっとだきしめた。涙がぼろぼろ出た。

「無事に帰ってきてくれて、ありがとう!」

お母さんも涙を流していた。親子のきずなを感じた、そんな出来事だった。お母さん、これからもよろしくね。

優 秀 賞 作 品

柏市小中学校校長会会長賞

いないけれど

流山市立西深井小学校

五年

田村 たむら

美結 みゆ

私には、お父さんがいません。私が二歳の時に病気で亡くなりました。今は、お母さんとおじいちゃん、おばあちゃんと暮らしています。

お母さんは優しく、いつも私をだきしめてくれます。おばあちゃんはおいしい料理を作ってくれて、おじいちゃんはおとも可愛がつてくれます。私はたまにお父さんがいなくてさびしいですが、お父さんは私にたくさんのメッセージと宝箱をのこしてくれました。それを見ると、胸がぎゅつとなつて、私の事を大切に思ってくれていると感じます。それにお母さんは、

「大丈夫。ママが二人分の愛情をあげる。」

とはげましてくれます。そんなお父さんとお母さんがいて、私はとっても幸せです。

最後に、家族のみんな、今まで私のためにありがとう。悩みがあったら、相談していいからね。私は、これからもずっと前を向いて生きていくからね。大好きだよ。

優 秀 賞 作 品

柏市PTA連絡協議会賞

おはようござい

流山市立東深井小学校

五年

菊池 きくち

夏緑 なつみ

通学路の途中にじいじとばあばの家がある。朝、家の横を通るとじいじが道に立っている。「なっちゃん、おはよう。」と両手を大きくふって笑顔であいさつしてくれる。私は「じいじおはよう。」と返す。これが朝の日課だ。

ある朝、じいじが立っていなかった。「どうしたのかな、体の具合が悪いのかな。」と心配になった。帰ってからお父さんに伝えたら、すぐに電話をしてくれた。じいじは「ごめんね。ねぼうしたんだ。」と言っていた。ほっとした。反対に私が休んだ時は「なっちゃん、どうしたの?」とお母さんに連絡がくる。じいじは道に立つ事を「じいじの楽しみ。」と言っていたけど、お兄ちゃんが入学した日から七年も立っている。寒い日も暑い日も立つのはとても大変だ。私が毎日、安心して安全に登校できているのはじいじのおかげだ。いつもありがたい。私が卒業するまでのあと二年間、見守りをたのんだよ、じいじ!

優 秀 賞 作 品

ジェイコム賞

家族がふえたよろこび。

流山市立長崎小学校

五年

今津^{いまづ}

みゆう

私の家族は、父・母・弟二人・妹二人がいます。そんな私の家族の話です。去年私には、妹が産まれました。私は、将来のゆめが助産師なので生命の誕生にすごくきょう味がありました。母のおなかはどんどん大きくなり体調の悪いときもありました。私は母に「辛い?」と聞いた事があります。母は、「おなかの中で生きている証拠だから大丈夫だよ。」と笑って言っていました。おなかの中の写真やおなかの中で動いている動画など見せてもらいすごく感動した事を覚えています。私に母は、「またパパとママの大切な子がふえてうれしいうれしいうれし。」と言いました。そんな父と母の子に産まれてこれてすごくうれしかったです。そして実際に産れたばかりの妹はとてかわいくて良いにおいがしたのをすごく覚えていて、命の大切さを近くで感じる事ができ助産師になりたい気持ちが大きくなりました。

優 秀 賞 作 品

麗 澤 大 学 賞

がんばっている母

松戸市立河原塚小学校

五年

畠山

馨

はたけやま

かおる

わたしの家族は、母と妹とわたしで三人家族です。

わたしの父はわたしが六才の時に亡くなってしまいました。父が亡くなってしまってから母は一人でわたしと妹をがんばって育ててくれています。でもわたしは母がねているところを見たことがあります。なのでときどき父が亡くなってしまったように母も気がついたら亡くなってしまっているのではないかという不安におそわれます。だからわたしは、毎日家の手伝いをしています。だけどわたしはできないことも多いので母のふたんはなかなかへりません。

それでも四年間ずっと苦勞しながらも、わたしたちを育ててくれた母には感謝してもしきれません。だからわたしがいろいろなことができるようになって母のふたんをもっともっとへらせるようになりたいです。お母さん本当にありがとうございます。

優 秀 賞 作 品

モラロジー道徳教育財団賞

最後のお別れ

柏市立柏第七小学校 五年

菅 すが 朱莉 あかり

昨年、新潟に住んでいる私の大好きなひいおばあちゃんが九十六才で亡くなりました。柏からは、おじいちゃんが代表でおそう式に行くことになりました。私はちゃんと顔を見て最後のお別れがしたかったので、そのことを聞きぼろぼろと涙が止まらなくなっていました。なので、おじいちゃんに何度も新潟に行けるようにお願いしました。おじいちゃんも交渉してくれ、私はお通夜に行けることになりました。

家に着くと、寝ているひいおばあちゃんの表情はおだやかでした。お通夜では三途の川を渡るための六文銭をずた袋に入れさせてもらったり、旅立ちの準備を手伝わせてもらえました。しっかりと顔を見てお別れができたので、ひいおばあちゃんの家を出る時には、本当に来れて良かったと思いました。

今年の夏、新潟に帰ることになっています。お墓に入っているひいおばあちゃんに、これからも見守ってくれるように伝えたいです。

私の自まんの家族

松戸市立小金小学校

五年

有澤 ありさわ

帆夏 はんな

私は五人家族です。前まで四人家族でした。だけど今年で五人になります。ふつうの家庭だけどとても自まんのできる幸せの家族です。お父さんは努力家で家族のために朝早くから夜まで体を張って仕事をしてくれます。お母さんは、血はつながっていないけれど、本当の家族みたいにやさしく世話してくれます。おじいちゃんはずっかちで、このパン好きと言うと毎日買って来てくれます。とてもおもしろいおじいちゃんです。おばあちゃんは体の大きさは同じでも、心の大きさはとても大きくて私がこまっていたり泣いていたら相談にのってくれます。ケンカすることもあるけど、やさしいおばあちゃんの手が大好きです。私は前まで自分にはお母さんがいないみんなとちがうふうじゃないと考えていました。だけどそんな時も家族は私の相談にのってくれ、いつでも私の味方でした。だけど今は自分は世界一の幸せ者だと思っています。お母さんの分まで愛してくれてありがとう。

キャンプ

松戸市立小金小学校

五年

磯谷 いそや

風紗 なきさ

私の家族はよくキャンプに行く。キャンプに行くと、ワクワクして楽しい気持ちになる。

キャンプは家族のきずなが深まるような気がする。家族みんなで役わりを分たんしなれば、うまくいかない。一つのチームのように。

私の役わりは、たき火のための木の枝を拾うこと、料理の下ごしらえをすること、やんちゃな妹や弟を見守ることだ。大変なときもあるけれど、自分の役わりがあることはうれしく思う。

また、キャンプに行くと自然に笑顔が増える。魚つりをしたり、温泉に入ったり、星を観察したり、たき火でマシュマロを焼いてデザートをつくったり、最後はいつも花火。いつもは学校や仕事、習い事、みんなバラバラで行動しているから、家族みんなですぐす時間は宝物のように感じる。そんな時間をすごすことで、また頑張ろうと元気をもらえる。家族のみんな、いつもありがとう。

家族といっしょに。

柏市立柏第三小学校 五年 植田 彩加
うえだ あやか

私が四年生のころ、ずっと夢みたことは責任感を持つということでした。

その時、「学級委員：やってみようかな」と少し思ったのですが、「どうせおちて、悲しむだけだ。」と不安に思ってしまった。その事を家族に相談してみると、

「いいじゃん！やれやれ。」

と、みんな賛成してくれました。

それからは、「自分はどんな学級委員になりたいか」などをみんなよく考えていきました。

おそらく、あの時みんなに言ってなかったら今ごろ他のだれかが学級委員になっていたのかもしれない。

家族みんなが私のせなかをおして一歩前に進ませてくださいました。「今の生活が-okれているんだらうな」と思います。

ですから私は困ってしまった時・立ち止まってしまう時は家族といっしょにのりこえていこうと思います。

家族の大切さ

流山市立長崎小学校 五年 牛奥 結香
うしおく ゆいか

わたしは、家族はとても大切だと思います。たとえば、せっかく用意してくれたご飯も一人で食べると、おいしいはずのご飯が味けなく感じます。そんな時に家族の大切さを感じます。また、家にだれもいなかったら「ただいま」と言っても何もかえってこないの、明るい気持ちにもなりません。「ただいま」と言って家族に「おかえり」と言ってもらえるのは、とてもうれしいことだと思います。

いろいろと家族にお世話になっているのに、わたしはお手伝いをするのが少なく、あまり役に立っていない気がします。だからこれからはもっと家のお手伝いをして家族をもっと喜ばせたいです。

怒るとこわいお父さん、口うるさいお母さん、おふざけばかりの弟、むかつくこともあるけれど、わたしの大好きな家族です。ずっと一緒に生活している家族なので、口に出さなくても分かり合えることも多いですが、たくさん話をして、きずなを深めたいです。

水泳と家族

流山市立西深井小学校

五年

柏木 かしわざ

柚香 ゆずか

私は、水泳をやっていて、選手としてクラブチームに所属しています。ほぼ毎日のように夕方から練習へ行き、夜おそくまで泳いでいます。私が「やりたい。」と言い始めた水泳ですが、家族に力をかりなければ、通うことができません。父が試合や練習の送り迎えをしてくれ、母がお弁当や水泳の準備をしてくれているので、私は精一杯がんばることができそうです。

また、試合で結果がはず落ち込んでいると母の言葉で、「もっと全力でやらなくては」と言う気持ちになり、妹の応援で「次こそは」と思います。私はこれからも、まだまだ水泳を続けていく予定ですが、私一人の力では、続けていくことができません。父母妹は、私のために、いつもいつもサポートしてくれます。とてもありがたいと思っています。これからも家族に支えてもらいながら、ジュニアオリンピックを目指し、がんばっていいこうと思います。

ぼくは愛されている

松戸市立小金小学校

五年

加田木 かたぎ

晃幹 みつぎ

ぼくは今、十才です。健康で、どちらかというと体も大きい方です。

でも、生まれた時はずい分体が小さかったので、保育器に入って入院していました。入院しているほくのために、母が毎日母乳を届けに来てくれたことを知った時、「大切にされていたんだな。」と、うれしくなりました。無事に退院すると、たくさんの人たちがぼくに会いに来てくれたそうです。その時のことを、ぼくは覚えていませんが、かざつてある写真を見ると、今はもういないそう祖母も、笑顔でぼくをだっこしてくれていて、皆から愛されていたことが分かります。

愛されているから言われていると分かっているけど、最近のぼくは両親に注意されると、言い返したりいじけたり、時間を守らなくて祖父母に心配をかけたりにしています。

これからは、今まで当たり前だと思っていたことにも感謝をしたり、もっとす直に話を聞いたりしたいと思っています。

弟が生まれたから変わったこと

松戸市立小金小学校

五年

栗原 くりはら

心音 こころね

私に弟ができたとき。病院へはいけませんでしたが、ビデオで弟をうつしてくれました。家にいた私とお父さんはおもわず、

「かわいいー」

とシンクロしました。家族が三人から四人へかわったときです。私はとてもうれしくなりました。何しろ、無事に弟がうまれてきてくれたからです。私はこの日、弟はたくさんの「初めて」の経験をくれました。初めてお姉ちゃんになったこと。初めて兄弟ができたこと。家族がふえたこと。きつとお父さんもお母さんも、同じことを考えていたと思います。私がつまえたときも同じだったのかな？き間に思います。でもお母さんとお父さんは、きつと弟がうまれたときと同じように喜んでくれたはずです。私は改めて命がたん生するまでも大変だと知りしました。うまれてくる前も後もお母さんもお父さんは大変そうです。私は気づきました。弟がうまれていなければ私はこのことを知れていなかったのです。

運動会

柏市立柏第三小学校

五年

黒竹 くろたけ

信貴 のぶたか

去年の運動会で私は、「どうせ徒競走なんて一位とらなくていいや!」と思っていました。それを聞いていた母は、

「一位になれなくても、最後まで走り切る事に意義があるんだから、一位をとろうとしなくてもええんじゃない?」

と言っていました。その一言で、なんだか勇氣をもらえたような気がしました。

当日、母の言葉を思い出しながら走りました。結果、なんと一位!一位になったのは、おそらく母のおかげだろうと感じました。その事を母にほうこくすると、

「すごいじゃん!がんばったやん!」

と、ほめてくれました。父は、

「おお!すごいね!」

と言っていました。

二人に感謝して、「来年もまた、一位になったらいいなあ」と思いました。友達にも、「おお!ノブすげえじゃん!」

と言われました。自分に自信を持てました。

大好きな家族とのきずな

柏市立柏第五小学校 五年 斎藤 愛^{あい}

私の家は四人家族です。私・母・祖母・祖父で暮らしています。母は頭が良くて、私に勉強を優しく教えてくれます。祖母は笑顔がすてきで辛い時もいつもそばにいてくれます。祖父はボードゲームに付き合ってくれ、私の話をうなずいて聞いてくれます。

家族の好きな所は私の一番の味方でいてくれる所です。学校での話を聞く時、悲しい事があった時も真剣に聞いて気持ちを受けとめてくれます。そしてたくさんほめたり、厳しくしかったりしますが、私の事を一番に考えてくれています。

私を感じる家族のきずな。それは、信頼し合えてはるかしくなく大好きだと言えるような関係なのかなと思います。

母も祖母も祖父もみんな大好き！こんな誇りに思える家族が大好きです。これからは私が家族の一番の味方になる番です。

私はすてきな家族との暮らしをすごく幸せだと思えるような日々になります！

ぼくのお兄ちゃん

松戸市立河原塚小学校 五年 斎藤 輝太^{こうた}

ぼくとお兄ちゃんは、としが二つはなれています。いつも遊んでくれるお兄ちゃんが、大好きでした。ですがある日お兄ちゃんとけんかをしてしまいました。ぼくはお兄ちゃんに悪口を言ってしまった。それからぼくは家を出ました。暗やみの中歩いていました。するとお母さんがさがしにきてくれました。ぼくは泣いてお母さんにとびきました。お母さんはお兄ちゃんに謝りなと言いました。家に帰るとお兄ちゃんにぼくは謝りました。お兄ちゃんはゆるしてくれてうれしい気持ちでした。ぼくは、お兄ちゃんと仲良く夕ごはんを食べました。

ぼくのお兄ちゃんは、世界でたった一人しかいません。たまにはけんかもするけれど、きつとぼくが家を出ていった時は、心配してしてくれたと思います。家族は一生縁のきれることのない、宝物だと思いました。お兄ちゃんいつもありがとう。

生きててくれてありがとう

松戸市立南部小学校 五年 裕 さこ 茉琴 まこと

私のひいおじいちゃんは、戦争時代を生きぬいた人です。でも私は、戦争にきょうみはなくなんとも思っていないでした。

四年生の時、「一つの花」という話を国語で勉強しました。「二つの花」という話は、戦争の中を生きた小さな女の子のゆみ子の話です。戦争がはげしくなるにつれ、食べ物が少なくなっていく、いつもおなかがいっているゆみ子をみていると、この時代に生まれてきてよかったと思うばかりです。そして、この話をきっかけに戦争にきょうみを持ちはじめたのです。図書室の戦争の本コーナーに行くと、原ばくの本が多く、『はだしのゲン』などがありました。戦争の本を読んでいると、ふと思いついた事がありました。私のひいおじいちゃんは同じ事を私と同じ年の時に体験したということ、こうげきはうけなかったそうですが食べ物が少なくなりました。『生きててくれてありがとう。』と言いたくなりました。そして、これからも長生きしてね。

私のヒーロー

流山市立長崎小学校 五年 佐藤 さとう 愛有 めあり

「グキッ」

私の足に激痛が走った。鬼ごっこ中に公園の塀から落ちて骨折したのは、私が一年生の頃だ。「いたい、歩けない、どうやって帰ればいいの」不安でいっぱい私の元へ、慌ててかけつけてくれたのは姉二人だった。

姉達とは、テレビや助手席の取り合いで喧嘩になったことが何度もある。「一人だったら自由なのに」と思っていたのだ。だけど、骨折した時におんぶで家まで運んでくれた事をよく思い出す。寒い冬の日だった姉の背中に乗った私は寒さも足の痛みも忘れるくらい心が温まって救われた。

私には姉が三人いる。姉達は、私が難しい事に挑戦する時には「大丈夫！めありならできる」と応援してくれ、困っている時には助けてくれるヒーローのような存在だ。いつも側で支えてくれる心強い家族がいる私は、これからどんな困難が立ちはだかるうときっと乗り越えていける。みんないつもありがとう。

弟からの四文字

神戸市立小金小学校

五年

佐藤 さとう

悠季 ひさき

「ひーねーがんばれ！」

この言葉は、運動会のリレー中に、弟がさげんでくれた言葉です。

「がんばれ」なんて、運動会の競技中なら、よく聞く言葉ですが、不思議なことに、すくなくとも、私の耳には、はっきりと聞こえました。もしかしたら、弟は何も言っていないかもしれません。

ですが、はっきり聞こえた、「がんばれ」この、たった四文字の言葉で、私は、もう勝てないだろうと思っていたリレーで前の走者とのきよりをすこしだけちぢめることができました。

走ったのは私で、そこからだんだんと一位だった走者に追いついていったのは、私の後の走者のはずなのに、なぜか、弟のおかげという感じがしました。弟がいなければ、リレーで一位をとることはむずかしかったと思います。

いつか「ありがとう」と言えたらいいな。

家族という毎日

柏市立柏第七小学校

五年

佐藤 さとう

莉子 りこ

「いつてきます。」

母は家を出た。母は先生をやっていて、今日は修学旅行なのだ。父と私は見送った。私は父の顔を見ると、なんだかさびしそうだ。私もねむかったが同じ気持ちだった。

今日は土曜日、父と一緒に映画をみる約束をしていた。映画はおもしろかったが、帰ってくると母にすぐ会いたくなった。その日はなぜか時間が進むのがおそかった。そして夜いつもそばでねてくれている母がいなくなみだがちよつとでた。次の日、母がやつと帰ってきた。私は母に会えて安心した気持ちでいっぱいになった。

家族が一人だけでもそろわないとこんなにさびしい気持ちになるんだなと思った。家族と毎日あたりまえのようにくらしたい。家族とくらす日々は大切にみんなが幸せにくらしたい。

我家に双子ちゃんがやってきた!

柏市立柏第三小学校 五年 澤畑^{さわはた} 七葉子^{ななこ}

六年前、私が四才の時に、ママのおなかに双子がやってきました。それから大変な事がたくさんあって、ママが今までみたいに何でもはできなくなりました。弟か妹がほしいと思っていたけど、その時は赤ちゃんよりママを助けようと思って、荷物を持ってあげたり、外に遊びに行くのをがまんしていました。雪がふった日に、外で雪遊びが出来なかったので、家の中に雪を運んできて遊んだりもしました。すごく楽しかったです。お手伝いもたくさんし、外に出る日が少なくて、折り紙も一生分折ったと思います。

ついに弟と妹が産まれる日がやって来ました。無事に産まれて、「チーム澤畑」に二人加入しました。みんなが力を合わせてくれて無事に産まれたよとママも言っていました。チーム澤畑はけんかもするけど、いつまでも味方で、いつまでも応援し合える最強のチームです。

感動と勇気

鎌ヶ谷市立五本松小学校 五年 澁谷^{しぶや} 星空^{せら}

「お母さん、もう治らないんだよね?」
夕ごはんのときに、わたしはお母さんに聞いた。
「うん。かならず何かのしようじようは残る。」
と、お母さんはいった。

わたしは、チックしようという病気で、たいていはすぐ治る。でも、わたしは悪化していつて、どんなしようじようがひどくなっていた。治ってほしいとねがっていたけど、かならず何か残るらしい。「そっか!」と重々しく言ったわたしに、お母さんは、「今は、少しでもおさまることをいのろう。プラスに考えて。ママもパパも、味方だよ。」

と言って、わたしをほげましてくれた。その言葉は、わたしの元気をとりもどした。お母さんとお父さんが、はげましてくれて、わたしは泣きそうになった。わたしのことを、こんなに思ってくれてるんだ、って。お母さんとお父さんのおかげで、わたしは勇気もらった。お母さんと、お父さんはわたしの希望だ。

ちらしずし

柏市立柏第七小学校 五年 下瀬^{しもせ} 晴琉^{はる}

だしの香りが部屋いっぱいに広がり、パタパタうちわであおぐ音、つんとお酢の香り、「手伝ってー。」

と声をかけられ妹と台所へ行きます。だしがしみこんだ高野豆ふにやわらかいになじん、甘いしょうゆ味のしいたけ、しゃきしゃきさやえんどう、そしてふんわり錦糸卵、仕上げにもみのりをかけ、ひいおばあちゃんの作るのと同じちらしずしのできあがりです。

ひいおばあちゃんの誕生日とひな祭りをお祝いする日、大阪大空しゅうがありました。ちらしずしのおひつを持って、ひいおばあちゃんのお母さんにはげ、空しゅうのあと弟たちと食べたという話を聞きました。

よくが座って食べられるちらしずしも、ひいおばあちゃんは怖い思いをして食べていたのかなと考えると、ちらしずしの味がずっと心にしみるし、ひいおばあちゃんとすごした時間も思い出すし、おばあちゃんがくれたおひなさまも見守ってくれている気がします。

家族とのきずな

柏市立柏第七小学校 五年 杉岡^{すぎおか} 愛^{あい}

私の家族は父・母・私・弟の四人です。

父は怒ると少し怖いです。よく「愛達が嫌いで怒ってるんじゃないよ。愛達が大切でいい人になつてほしいから怒るんだよ。」と言います。きびしいけどいつも私達に愛情を注いでくれる頼もしい存在です。

母は私の目標でもあります。母は優しく私達が「食べたい」と言った物を作ってくれます。私も母のような人になれるようにこれからもっと教わりたいです。

弟と私はけんかをしますが、ふだんは私が知らない事を話しておどろかせてくれる、笑顔のかわいい弟です。

最近私は父と弟と共に剣道を始めました。週二回家族みんなでけい古に行きます。剣道が家族のきずなをより深めていると思います。

私はこの作文を書いて、私の家族はとても幸せなんだと感じました。そして家族とのきずなをもっと深め色々なことに挑戦したいです。

家族からの忘れられない言葉

柏市立柏第三小学校

五年

すぎた
杉田

とこわ

私のおばあちゃんは、三年の春休みのときに亡くなってしまいました。おばあちゃんが亡くなって何日かたったときのある日、お母さんが、

「おばあちゃんは、とこちゃんのことをなによりも大切に、大事にしている、とこちゃんは、とても幸せだったんだよ。」

というお母さんの言葉を聞いて、私の目にはもうすでに涙があふれていました。その時に私が思ったのは、たとえ私がおこつてもきげんが悪くてもどんなときでも支えてくれるのが家族というものなんだということでした。私が泣いていたら、そつとよりそつてくれたり、私がおこつていたら、いっしょにおこつてくれたり、そんな何もない日常が私にとつてとても大切なものだったんだと思いました。今、こうして、くらしているのは、すべて家族のやさしい愛から成り立っているのだと、五年生になった今でも思っています。

かけがえのない大切なそんざい

柏市立柏第三小学校

五年

すぎやま
杉山

ゆり
侑里

いつもとなりにいてくれる家族。家族はいつも、やさしい笑顔で見守ってくれている。いつでも私は、家族に支えられて生きている。だから家族は私にとって、かけがえのない大切なそんざいで、家族のうちだれか一人、おじいちゃんでもおばあちゃんでもひいおじいちゃんでもひいおばあちゃんでも、だれかひとりでもいなければ私も弟もうまれていなかったかもしれない。その中で私がうまれてきたことと弟がうまれてきたことそれはきせきだったんだと思う。そして、私は一人では生きていくことはできないもちろん人は全員一人で生きることとはむずかしいだからこそ家族と支え合つて生きている。

ときにはきびしいけれどそれは私のため、私の未来を考えて言ってくれているんだと思うときには反こうしてしまうけどそれでも私は、家族にありがたみをもつていきている。だから、いつかありがとうこの家族にうまれて幸せだとつたえたい。

家族のはげまし、感謝。

柏市立柏第三小学校 五年 鈴木 鈴木 すずき 禮大 れお

ぼくは、そろばんの試験に落ちた時、とてもうれしいし、悲しかったけれどお母さんが、「がんばらないで、落ちたらおこるけれど、全力でやったならまたチャレンジすれば良いだけだよ。」と言って、はげましてくれました。その時ぼくは、うれしい気持ちになり、少し安心しました。これからも、がんばるぞ！の気持ちがいえりました。一人だったから、なやんでいたかもしれないけどいつもそばにいて、良いアドバイスをくれる人がいることに感謝したいなと気づかされました。また、自分で決めた委員会や、クラブ、吹奏楽部を一生けんめいやりることが、大切ななと思いました。

はげましは、勇気をたくさんもらえて、自分に自信が、持てる事が出来るので、家族が困っていたら、今度は、ぼくが、はげましてみようと思います。

家族のやさしさ

柏市立田中北小学校 五年 砂川 すなかわ 桜太郎 おうたろう

ある日僕は友達の家でサッカーをして遊んでいました。僕が蹴ったボールが友達の家の中の置物にあたっ
てしまい割ってしまいました。お母さんに電話をして、そのことを話しました。

お母さんは怒っていません。

僕はお母さんが帰ってくるのを怯えて待っていました。

お母さんが帰って来て

「友達の家に行くよ。」

と二人で友達の家に向かいました。友達の家に着き一緒に謝ってくれました。友達のお母さんに素直に謝ったら許してくれました。僕は謝ることが少し怖かったけれどお母さんが

「悪いことをしてしまったり、相手に嫌な気持ちにしてしまったらすぐに謝ることが大事なんだよ。」
と言っていました。最初すごく怒っていたのは僕に謝ることができない大人になってほしくない、お母さんの優しさだったと思います。

家族のきずな

柏市立田中北小学校

五年

砂川 すながわ

拓斗 たくと

ぼくには五歳差の妹がいる。妹が産まれる前、母が安静にしていなければならなかったので祖母がお手伝いに来ていたことをよく覚えている。幼稚園の後、病院へ妹に会いに行くのがいつも楽しみだった。妹を初めてだっこのした時、温かいな、小さいな、早くいっしょに遊びたいな、兄になったのだと思った。きつと他の赤ちゃんをだっこのしてもこんな感情にはならないし、特別な気持ちだと思う。祖母が母にそうする様に、ぼくも妹が困っている時は助けてあげたい。妹が大きくなった今でも、ぼくは家の手伝いをして母を助けたり、妹ができない事は手伝ってあげたりしている。それは面倒な時もあるけれど、母はよく「ワンチーム」だと言う。ぼくたち家族は、力を合わせてどんな事も乗りこえていくきずなを持っている。ぼくが大人になって、もし家族がはなれて暮らすことになっても、その関係はずっと変わらない。それがぼくの大好きな家族なのだ。

母の笑顔

鎌ヶ谷市立五本松小学校

五年

瀬戸 せと

乃々佳 ののか

「おばあちゃんは、わすれたくないけれどわすれてしまっただよ。」

そう話すのはわたしの母です。母の母はにんちしゅうです。おばあちゃんは高知県のかいごしせつにいます。時々会いに行きますが、いつも母は泣きそうです。

「お母さん、会いにきたよ。元気だった？」母がよびかけてもおばあちゃんはびくともせず、口をパクパクしているだけです。今はしゃべれませんが、しゃべれたころは母のあねのことを

「だれですか。」

と言ったこともあります。毎日母は元気な顔をわたしに見せていますが、本当は泣きたくてたまらないのだと思います。わたしも時々、母がにんちしゅうになったらどうしよう。などと考えると、泣きそうになります。母に感謝してもしきれません。わたしが生きていること、それは苦しみにあたえてきた、母のおかげです。お母さん、ありがとう。

また会えるといいな

鎌ヶ谷市立五本松小学校

五年

竹口 たけぐち

由布 ゆふ

五年前の十一月五日、おばあちゃんが、がんで亡くなってしまいました。

おばあちゃんは、元気でやさしくてなんでも出来て、いろんな所へ連れて行ってくれる、最高なおばあちゃんでした。でもそれがあたり前だと思っていました。今考えると、やさしいおばあちゃんだったな。と思います。

わたしはまだ、年長さんだったのでいまいちくなるというのをあまり分かりませんでした。だけど自然になみだがあふれました。いっぱい泣きました。するとおばあちゃんのゆめを見ました。今ではもう見ません。生まれ変わったのかなと今でも思います。

もしおばあちゃんに会うなら、会えるなら、「おばあちゃん大好き。そしてありがとう。」と一言伝えて、いっぱいハグをしたいです。あの日の事、おばあちゃんとの思い出は、一生わすれません。いや、わすれられない思い出です。

また会えるといいな。

忘れられない家族の一言

柏市立柏第三小学校

五年

竹田 たけだ

梨玖 りく

ぼくは、今年四月で十一さいになりました。この十年間ぼくを、ずっと育ててくれた、ずっと見守ってくれたのは、家族でした。

ぼくは、うち園の頃から泣き虫で、お母さんがいないとしくしくと泣いていました。それを見た、お母さんは、

「だいじょうぶだよ。」

と、やさしい言葉を言ってくれました。むずかしい問題や、習い事がむずかしくて、できない時も、

「がんばれ。」や、「次はできるよ。」

とやさしい言葉、やる気くれる言葉を言ってくれた時は、

「がんばるぞ。」

と勇気ができました。

この言葉を大切にして、色々な習い事が、できるようになったり、スポーツや勉強も、できることがふえてきました。次は、色々なことに、ちょう戦してみたいです。

「家族のみんな、いつもありがとう。」

黒焦げのたまごやき

柏市立土小学校 五年 田中 ひかり たなか

とある日、私達は家族で最も料理が苦手なお父さんにたまごやきを作ってもらいました。

お父さんがたまごやきを完成させたようで、見に行くと、両親が笑い転げていたのです。私はなにかと思い、見てみると、できているたまごやきがまっ黒です。私は、

「え、何これ。」

と聞くと、お母さんは笑いながら、

「まっ黒焦げのたまごやき。」

と言いました。そこで、やっと両親が笑っていた理由が分かりました。その時妹が来て、

「まあ美味しければ良いでしょ。」

と言いました。確かに、と全員が同感して、早速食べました。不味くも美味しくもない。六十五点くらい。そう思うと、妹が

「まあまあ。食べられなくはないね。」

と発言しました。私が、

「全く同じことを考えてたよ。」

と言うと、みんなは大笑い。笑いにあふれた食事の時間でした。

私の大切なお母さん

柏市立田中小学校 五年 都留 柑菜 つる かんな

私はお父さんがいません。りこんしました。保育園児だったころにいなくなりました。ママが私を引きとり、引っこしをしました。ママは一年生になつてから、学校費やルームのお金などたくさん私のためにお金を使ってくれました。

一回、一年生の時にパパについて考えた事があります。その時、

「パパがいなのは私のせいだよね。」

と私はママに言いました。そしたら、

「ちがうよ。ママのせいだよ。パパがいなくてごめんね。」

と言われた事があります。

この時、私とママは泣きました。

家族は大切。でも仲が悪くなる時もある。私は大人になつたら、ぜったいママにお返しをします。一人で私を育ててくれたママはともりっぱでがんばっているママだと強く思っています。

「ママいつもありがとう。私を育ててくれて。」

お母さんが教えてくれた

「ありがとう」の意味

柏市立田中北小学校 五年 T・Y

私のお母さんは、私や近所の人が何かを手伝ったりすると、どんな些細なことにも、

「ありがとう。」

「ありがとうございます。」

と言っています。そして、私は時々どうしてそんなにたくさんありがとうを言っているのか不思議に思うことがあります。そこで、

「ありがとう。」

と言われた時に、思い切って、

「なんでありがとうと言うの。」

と聞いてみました。するとお母さんはにっこり笑って、

「ありがとうは感謝を表す言葉だから、感謝の気持ちをこめてありがとうと言うのよ。」

と教えてくれました。

私はお母さんにありがとうと言われるとうれしくなって、にこにこしてしまいます。ありがとうには人を笑顔にする力があるんだと思います。私もありがとうでみんなを笑顔にしたいです。

家族が教えてくれたこと

柏市立柏第三小学校 五年 なかの中野 みずき瑞希

私のうち園では、卒園前に集大成として、竹馬発表会がある。使用する竹馬は、参観日に父と竹を切って作り、母にはお気に入りの布でかざりをつけてもらう。こうして世界に一つだけの私の竹馬が完成する。

最初は竹馬に乗って足をかけることすらむずかしい。やつと乗れるようになって、バランスをとることがまたむずかしい。うち園で毎日練習するが、週末持ち帰って練習しないと、とても発表会には間に合わない。同級生はどんどん乗れるようになり、あせりもあったが、父は毎回練習に付きそってくれた。

何回もこけてケガをしたが、あきらめずに練習をした。ケガで豆ができるたび、母は手当てをしてくれた。練習のかいあって、発表会までに完ぺきに乘れるようになり、大成功で終えることができた。最後まで練習に付きそってくれた父と母に教えてもらったことは努力はむだにならないこと。私が最後まであきらめなかったのは一人じゃなかったからだ。

ぼくの思う大切な家族

柏市立柏第五小学校

五年

野本^のもと

侑生^{ゆうき}

うちは四人家族で、母、父、妹とぼくです。そして、みんながみんなを支えています。ぼくは、こういうつながりを家族と呼ぶのではないかと思っています。

ある日、母に質問されました。

「親って何だと思う？」

それに、ぼくは、

「人と人をつなぐ人じゃない。」

と、こたえました。この時は深く考えずにこたえたけれど、今となつては、本当にそのとおりだと思います。そして、

「親が子をつくり、その子がまた子をつくり、その子がまた……と、つないでいくから。」

という言葉もつけ加えて心にしまっています。

妹は、たまにイラッとなる時もあるけれど、二人で楽しく遊べる新しい遊びなど、いっぱい遊んでいます。年下の妹からも学ぶことがあります。妹は本が好きで、言葉を大量に知っています。そういう言葉をもらったり、知識をあげたりと、おたがい助け合っています。

なぜ感謝を伝えなければ

いけないのか

鎌ヶ谷市立五本松小学校

五年

秦野^{はたの}

奈緒^{なお}

わたしは色々なときにありがたさを感じます。でも一番家族のありがたさを感じるのは毎日の日常だと思っています。今、元気にすごせているのはお母さんやお父さん、おばあちゃんたちがこれまで大切に育ててくれたり、ご飯を作ってくれたりしたからだと思います。そのような人たちはすごく大変だしやめたいと思うことがあるとわたしは思いました。

だからお手伝いをしたり、日々、感謝を伝えたりしていきたいと思っています。それはもしかしらあまやかんなことではないかもしれませんが、でもそれは家族のためであり、感謝を行動で表すことができる大事なことです。そして努力すればどんなことでもできると思います。お母さんやお父さんはわたしたちのためにがんばってくれています。なのでわたしたちもお母さんやお父さんのためにがんばらなきゃいけないのです。そして感謝し、それを伝えていかなければならないとわたしは思います。

「ありがとう」の気持ち

柏市立田中小学校 五年 平野 ひろの 葵 あおい

私のお父さんは、保険会社で働いています。帰ってきたら、いつも「疲れたー」と言って、夜ご飯を食べます。

お父さんは平日の朝七時ごろに家を出て、夜九時ごろには帰ってきます。私は、「どんな仕事をしているんだろう?」と、疑問に思ったので聞いてみました。すると、事故の対応をしたり、発表の資料を作ったりしていると教えてくれました。その時、一つ気づいたことがあります。それは、疲れているはずのお父さんがほとんど休日は行くところを決めて、お出かけに連れていってくださることです。疲れているのに、私のことを思ったり考えたりしてくれているんだと思うと、お父さんに感謝の気持ちを伝えたいと感じました。

これからは、お父さんへの感謝の気持ちも込めて、自分ができるかぎりのことは手伝うなど、お父さんのためになれるような行動をとり、「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思いました。

いつもよりそってくれた家族

松戸市立柿ノ木台小学校 五年 福尾 ふくお 彩友 さやと

ぼくは、先天性の異常で生まれました。でも赤ちゃんだったので、その時のことは全く覚えていません。年長の時二回目の手術をしました。入院している時みんなから写真と手紙をもらいました。コロナで一人ぼっちの入院で毎日がさみしかったけれど、手紙や毎日欠かさずシャワーとご飯の時に父や母が交代で来てくれてその間は元気ができました。今でも、そしてこれからも定期的に治りようなどあるけれど、ぼくは、イヤではありません。だってぼくが治りようなどする時には、家族やおじいちゃん・おばあちゃん、親せきみんなを一人じめできるからです。その時に、みんなから守ってもらったお返しをしたいと思っています。

父が具合が悪くなった時、のみ物をとどけに行きました。ほんの少しだけ笑顔でした。

だれかが困った時や辛い時にはすごく、助けてあげたいと思いました。

はげましの言葉

柏市立柏第七小学校 五年 本田 ほんだ 梓 あずさ

「大丈夫だよ。」

失敗したり、落ちこんだり、悲しんでいる時私にいつも、はげましの言葉を言ってくれました。私はその言葉が大好きでした。学校では、お父さん、お母さんのように私を思ってくれたり、やさしくしてくれる人はあまりいないけど、家に帰るといつだって相談にのってくれる人がいます。私が「他の人はすごい」と、自分と他人をくらべておちこんでいる時も、

「十人いれば十人ちがうよ。」

といってくれました。それから私は、おちこみにくくなったと思います。この言葉に私は自分にすこし自信がでてきたり、私の人生を少し動かしてくれたのです。他にも今までたくさんのはげましで、今の自分があると思います。お父さん、お母さん、今までたくさんのはげましありがとう。はげましがあつたからここまでこれたよ。たくさんのはげましを思い出しているのりこえていきなと思います。

笑顔のご飯

柏市立田中北小学校 五年 前田 まえだ 結希 ゆき

「いただきます。」

小さな声でそれだけ言うと、私は無言で食べ始めた。けんかの後のいやなふん囲気が続いていた。いつもと何かがちがうと思った。だまって食べていると、いつだったかお母さんが話していた事を思い出した。食事は楽しいふん囲気で食べるもの。いやなふん囲気で食べる食事は、おいしくなくなってしまうのよ。私の心に、反省の気持ちがいってきた。

「ごめんね」

楽しい食事にしかかった私は、あやまった。悪かったことを伝え、もう一度あやまった。仲直りをした後、学校のことを話しながら食べていると、いつの間にか夕飯の時間は笑いに包まれていた。ご飯もいつもの倍おいしく感じた。私は、笑顔で食べる食事と、けんかしながら食べる食事のちがいに気づいた。その日の出来事をきっかけに、私は、毎日おいしいご飯を笑顔で食べている。

「いただきますー！」

家族の大切さ

柏市立柏第三小学校 五年 増谷^{ますや} 優希^{ゆうき}

ぼくは、五人家族です。おばあちゃんと、お父さんと、お母さんと、お姉ちゃんとぼくの五人家族です。おじいちゃんはおくが生まれる前に亡くなったのであったことはありません。なので、おぼんやおひがんでおはかまいりに行くと、おじいちゃんはどうな人だったんだろうとぼくは考えてしまいます。

お父さんにどんな人か聞くと、とっても優しくてまじめな人だったよつと言われます。

おじいちゃんとおばあちゃんがいるからお父さんがいてお母さんがいるからぼくと、お姉ちゃんがいます。そう考えると家族つてすばらしいと思いました。家族が元気で毎日笑つてすごせることはとても、最高に幸せなことなんだなと思いました。

家族がこまっていたらたすけ合いみんなで協力したいです。

そしてこれからも笑つてすごせるように、大切にしていきたいです。

お母さんからの思い

鎌ヶ谷市立北部小学校 五年 溝田^{みぞた} ゆき

ねる時間になった。

私はねる部屋に行つてねた。その夜、のどがかわき夜中に目が覚めた。水を取りに下へ行こうとしたら、下の部屋が明るかった。下へおりるとお母さんが食器を洗っていた。夜を思い出すと、私がねる前には仕事から帰つていなかった。お母さんは毎日夜おそくに帰つてきて食器洗いなど家の家事をやつてくれていることに気づいた。

私は「ありがとう」と伝えたかったが、言えなかった。だから、私は行動で「ありがとう」を伝えようとした。

でも夜に家事のことをやつたりすることは私にはできない。だから、お昼にそうじなどやり、お母さんの休みの日には、ご飯を作るようにした。

お母さんに「ありがとう」と言う私からの気持ちとはどいているかは分からないが、これからも続けて、みんなのためになれるようになります。

お母さんへの日頃の感謝

柏市立田中小学校 五年 宮下 みやした 菜月 なつき

私はいつも洗たくやご飯を作ってくれている、お母さんに感謝しています。なぜなら、私たちが学校に行っている間も、帰ってきてからも、ずっと家事をがんばってくれているからです。

五月十二日の母の日、私たちはお母さんのために料理を作りました。その時、ひとつひとつ手順を確にしながら作ったり、調味料をきちんと全部量ったりするのが、とても大変だと感じました。私は料理を作っている間に片づけなどをしましたが、それぞれどこに片づけるかを覚えなくてはいけないので、家事をするのには記憶力も大切なんだと私は思いました。

いつもあたりまえのようにまかせてしまっていたことだけど、母の日を通して、できることは自分でやらなくてはいけないんだ、と改めて強く感じました。これはやってみたいと分からないことなので、良い経験になりました。お母さんとても喜んでくれたので良い日になりました。

私にとっての安全地帯

松戸市立小金小学校 五年 山田 やまだ 愛里 あいり

近頃、子どもが亡くなるニュースを見ていて心が痛くなることがよくある。災害は防げないが、親に虐待されて亡くなった子はともかわいそうだなと思う。親ガチャという言葉はあまり良くはないかもしれないが、やっぱり当たりはずれはあると思う。でも子どもは選べないから仕方ない。でも、もし方が一天国で今の家を選んだならばその時の自分に「ナイス自分!!」と言ってあげたい。

私の家では、基本のルール以外は自分で習い事も、服も、やりたいことも、将来の夢も自分で決められる。もちろん姉や弟も。自分で決めた事だから何度挑戦しても、失敗しても、家へ帰えれば失敗したことも受け入れられるだから何度も挑戦したくなるように思う。他にも温かいごはんや自分のベッド、自分の居場所があり、とても安心できる。私の安全地帯は、温かい場所である。

家族のきずな

柏市立田中北小学校

五年

吉岡 よしおか

煌人 あきと

僕は、毎年スカイツリーの開業記念日で写真を撮ります。なぜかという、開業記念日が親の結婚記念日だからです。

僕は、写真を撮りに行くことを楽しみに思っています。なぜかという、毎年写真の日は、家族みんながニコニコしているからです。

写真を撮ることで一年一年の家族の成長も見られます。一年目は、両親だけ、二年目には僕が生まれたので三人で、四年目には弟が母のお腹にいて、五年目には弟が生まれて四人で写真を撮りました。十一年目には妹が母のお腹にいて、十二年目の今年も妹も加わって五人家族で写真を撮りました。少しずつ成長する姿と、家族が増えていく様子が見られるのが面白いと思いました。

家族はいつも笑顔です。たまに怒ることもあるけれど、写真の日は笑顔です。だからこれからもずっと一緒に写真を撮りに行きたいです。

家族との母子手帳

柏市立柏第五小学校

五年

吉野 よしの

真央 まお

私は、つい最近、母子手帳を見ました。私の生まれた時から、今までのことが全て、書いてありました。

私が、初めてできたこと、練習したことなど色々書いてありました。私が見ていると、

「苦手なことにもちようせんして、がんばっていたよ。」と、母が言う、私は「ちようせん」という言葉に興味を引きました。母子手帳は、家族のきずなでもあり、父と母からのちよつとしたプレゼントなのではないかと思いました。家族ですごしてきた日々はかけがえのない、宝物でもある日々です。母は大変ななか、私が具合が悪くてもいつもそばにいて、いつも身近にいるそんざいです。はなれていても、となりには、母がいると私は、いつも心に、言い聞かせています。

母や父、おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとう。これから先も、そばにいてほしいと思います。うんでくれてありがとう。

募集要項

応募資格

令和7年度、東葛6市（柏・我孫子・鎌ケ谷・流山・野田・松戸）の小学校に通う5年生

応募方法

- 400字づめ原稿用紙1枚以内。
- 応募用紙は令和7年4月を目安に各小学校に配布して学校ごとに集めて応募します。
（裏面が原稿用紙になっています）

応募期間

令和7年5月1日(木)～6月30日(月)（予定）

賞

千葉県知事賞・柏市長賞・柏市教育長賞・柏市小中学校校長会会長賞・柏市PTA連絡協議会賞・ジェイコム賞・麗澤大学賞・モロロジー道德教育財団賞

入賞 8 作品

入選 42作品

発表・表彰

- 令和7年10月25日(入賞・入選作品の発表と表彰式を行います。
- 入賞・入選作品は主催者発行の「エッセイ集」並びにホームページに掲載させていただきます。また、協賛企業にて作品のパネル展示を行います。

その他注意事項

- 応募作品は日本語で書かれたものに限りです。
- このエッセイ集に掲載されているエッセイの著作権は、主催者に帰属します。
- 作品中の個人情報についてはご本人及び保護者のご同意を受けたくうえで掲載させていただきます。
- 作品の掲載に関しまして主催者側の判断において一部を削除・修正させていただく場合がございます。

「家族のきずな」エッセイ集

令和6年10月26日発行(非売品)

発 行 公益財団法人

モラロジー道德教育財団

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号

☎04-7173-3111(代)

<https://www.moralogy.jp/>

主催者の許可なく転載を禁止します。 6500



【協賛企業・団体】

敬称略

青木建設(株)

家の光製本梱包(株)

(株)岩田印刷

SMBC日興証券(株)

(株)エヌ・ワイ・ピー

柏モロロジー事務所

(株)コミニケ出版

サンケイ総合印刷(株)

精文堂印刷(株)

(株)太平印刷社

武田建装(株)

常木裕二

(株)とうこう・あい

東武バスセントラル(株)

流山モロロジー事務所

(有)野上モータース

(株)花園サービス

(有)廣瀬造園

(株)星広告

松戸モロロジー事務所

(有)丸勝電気

(株)三菱UFJ銀行 松戸西口支店

薬膳料理 龍桂林

横山印刷(株)

リコージャパン(株)

(株)れいたくサービス

(株)ジェイコム千葉東関東局

東葛毎日新聞社

柏市民新聞社

セブンパークアリオ柏

テラスモール松戸

パレット柏

三井不動産商業マネジメント(株)

イオンモール柏

このエッセイ集は皆様からのご寄付を活用して作成しています。
本事業に賛同いただける方は右のHPよりご寄付願います。

